

流域圏からみた日本の環境容量

- 日本のバイオリージョン・全国109流域 3D-GIS MAP -

受賞記念・出版ご案内!!

- ◆書名：「流域圏からみた日本の環境容量」
- 日本のバイオリージョン・全国109流域 3D-GIS MAP -
GIS Map Book for Japanese River Basin
- ◆著者：大西文秀
- ◆出版：大阪公立大学共同出版会（OMUP）
- ◆体裁：B5判、222ページ、上製本、オールカラーページ
- ◆定価：3,200円（税別） ISBN：978-4-907209-08-7 C3051

★★ 一般の方：2,600円★★（税、送料、振替手数料込）

★★ 学生の方：2,200円★★（税、送料、振替手数料込）

- 下記記載の上、下記アドレスへメールでお願いいたします。
お申込みアドレス（e-mail：f-onishi@m3.kcn.ne.jp）
1.お名前 2.部数 3.送り先 郵便番号・ご住所・電話番号
- 郵便振替票を同封してお送りいたします。

ヒトと自然の関係を環境容量としてとらえ、GISによる可視化した情報発信に挑んでいます。
これらの活動により、第12回環境情報科学センター賞、特別賞を受賞しました。
皆様のお蔭と感謝しております。

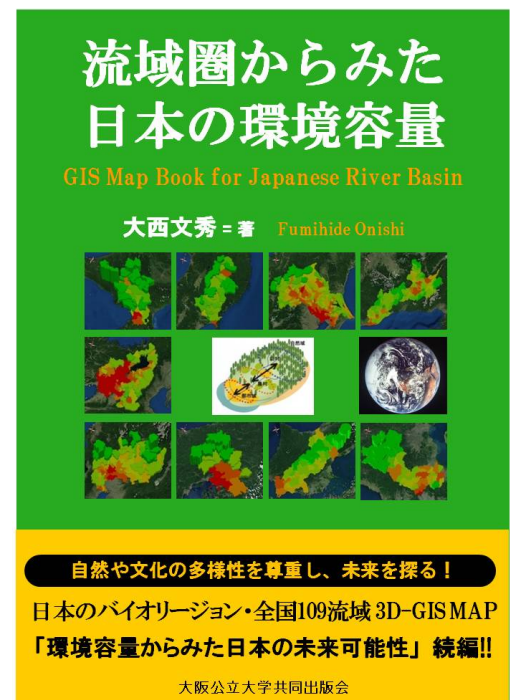
受賞記念として、「流域圏からみた日本の環境容量 -日本のバイオリージョン・全国109流域 3D-GIS MAP-」を上梓しました。
本書は、多くの要望を頂いておりました流域版です。全国109の一級水系の流域の環境概要や環境容量を、3次元GIS画像やレーダーチャートを用いてビジュアルに掲載しております。

明日の地球と子どもたちの未来に寄与できることを願ってやみません。

第12回環境情報科学センター賞 特別賞受賞（2012）

「ヒトと自然の関係の可視化を目指し、日本の環境容量をマップ化した書籍の出版」
受賞対象書籍

「環境容量からみた日本の未来可能性」（2011、OMUP）・「GISで学ぶ日本のヒト・自然系」（2009、弘文堂）



「流域圏からみた日本の環境容量」 - 日本のバイオリージョン・全国 109 流域 3D-GIS MAP -

先般、第 12 回環境情報科学センター賞の受賞対象書籍『環境容量からみた日本の未来可能性』の謝恩案内をさせて頂きましたところ、沢山のお問い合わせやお祝いのお言葉を頂きありがとうございました。お礼申しあげます。

この度、受賞記念として『流域圏からみた日本の環境容量』を上梓いたしましたので、ご案内させていただきます。

本書は、多くの要望を頂いておりました前書の流域圏版です。我国の 109 の一級水系の流域の地勢・標高、水系、立地都市など 12 項目の環境概要や、それらの環境容量を市区町村単位で 5 つのエコモデル (CO₂ 固定容量、クーリング容量、生活容量、水資源容量、木材資源容量) と地理情報システム (GIS) を用い試算し、流域圏の潜在性を 3 次元 GIS 画像により可視化した、低炭素・低リスク社会を推進するためのオールカラーの環境ガイドブックです。全国 109 の各流域を見開きの 2 ページ、あるいは 1 ページで分かりやすく掲載しています。

「流域圏の環境容量」が未来をひらく低炭素・低リスク社会へのスタートラインになろうとしています。宇宙船地球号と同じ半世紀近く前に生まれたこの概念は、地球の環境や資源・エネルギー、さらに災害リスクが高まり、私たちの生活や社会、また政策に対する意識や価値観の変換が急務な現代において、その重要性が再認識されつつあります。バイオリージョン (自然生命圏) としての流域圏という自然空間単位と、ヒトと自然のバランスをはかる環境容量という指標を活用し、地理情報システム・GIS の助けをかり、日本の適正ラインやライフスタイル、さらに社会のあり方を探り、未来可能性を高めましょう。

環境教育や、地域情報の共有化・相互理解を進め、私たちの生活や社会、また国土や環境を見直し、未来可能性を高めることに寄与することを願ってやみません。どうぞよろしく願いいたします。

【目次】

●はじめに ●本書によせて ●本書の使い方

第 1 章 バイオリージョン・流域圏とエコモデル

1. もうひとつの宇宙船としての流域
2. 日本の流域・全国 109 の 1 級水系
3. ヒト・自然系のエコモデル
4. CO₂ 固定容量
5. クーリング容量
6. 生活容量
7. 水資源容量
8. 木材資源容量
9. 環境情報科学の役割

第 2 章 全国 109 流域圏の環境容量

全国 109 の一級水系の流域

1. 北海道地方の流域環境容量 (石狩川、十勝川、天塩川、釧路川、常呂川、尻別川、渚滑川、湧別川、網走川、留萌川、後志利別川、鶴川、沙流川)
2. 東北地方の流域環境容量 (北上川、最上川、阿武隈川、雄物川、米代川、岩木川、馬淵川、高瀬川、鳴瀬川、名取川、子吉川、赤川)
3. 関東地方の流域環境容量 (利根川、那珂川、荒川、相模川、久慈川、多摩川、鶴見川)
4. 中部地方①北陸・甲信越の流域環境容量 (信濃川、阿賀野川、九頭竜川、神通川、荒川、関川、姫川、黒部川、常願寺川、庄川、小矢部川、手取川、梯川、北川)
5. 中部地方②東海の流域環境容量 (木曾川、天竜川、富士川、矢作川、狩野川、安倍川、大井川、菊川、豊川、庄内川、鈴鹿川、雲出川、櫛田川、宮川)
6. 関西地方の流域環境容量 (淀川、熊野川、由良川、加古川、紀ノ川、大和川、円山川、揖保川)
7. 中国地方の流域環境容量 (太田川、江の川、高梁川、吉井川、斐伊川、旭川、千代川、天神川、日野川、高津川、芦田川、小瀬川、佐波川)
8. 四国地方の流域環境容量 (吉野川、四万十川、仁淀川、那賀川、土器川、重信川、肱川、物部川)
9. 九州地方の流域環境容量 (筑後川、大淀川、球磨川、五ヶ瀬川、川内川、遠賀川、山国川、矢部川、松浦川、六角川、嘉瀬川、本明川、菊池川、白川、緑川、大分川、大野川、番匠川、小丸川、肝属川)

第 3 章 流域圏からみた日本の未来可能性

- 都市域と自然域、流域の上流域、下流域、そして階層性
- 宇宙船地球号と Think Globally, Act Locally、そして流域
- 地球と地域をつなぐ流域
- 環境容量と流域圏から見た低炭素・低リスク社会

●参項文献

●おわりに

■ヒト自然系 GIS ラボ (GIS Laboratory for Humanity and Nature) e-mail : f-onishi@m3.kcn.ne.jp

